（驛逓局認可）　第千九十號　日曜日休刊（定價三錢）

時事新報

明治十八年十月十日（土曜日）
舊乙酉九月三日　つちのと、いぬ
日出午前五時五十三分　日入午後五時三十一分
月出午前七時四十一分　月入午後六時五十四分
滿潮午前六時三十七分　午後六時五十七分
（西暦一千八百八十五年）

時事新報定價（日曜日ハカリ休刊）
一枚金三錢〇一箇月前金六十五錢〇三箇月前金一圓八十錢〇六箇月前金三圓四十錢〇一箇年前金六圓五十錢〇郵便税一箇月金廿六錢一箇年金三圓十二錢〇左ニ掲クル各地ニ於テハ郵送無料ニテ配達致候
東京　横濱　横須賀　從神奈川至小田原驛　函根七湯　大坂
京都　大津　神戸　尾ノ道　福山　笠岡　岡山　廣島
和歌山　德島　高知　下ノ關　名古屋　岐阜　岡崎　豐橋
四日市　津　松坂　山田　仙臺　福島　二本松　石ノ卷
函館　青森　弘前　宇都宮　高崎　八王子
其他同地近傍配達便宜ノ個所ハ同シク郵送料不申受候

時事新報廣告料（前金）一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上卅日迄	卅一日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘	六錢四厘
自十一行至三十行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九五	五錢六厘
自卅一行至五十行	八錢	六錢五厘	五錢八五	五錢五厘	五錢二厘
五十行以上	七錢	六錢	五錢四厘	五錢一厘	四錢八厘

社告

○時事新報豫約御購讀被成下候ニハ新報代價並ニ郵便税モ必ズ前金ヲ以テ御拂入被成下度候又前金相切レ候ヘハ其日限リ新報ノ逓送相見合セ候
○新報代價並ニ郵便税トシテ御送附相成候金員當方ニテ正ニ落手仕候節其都度書面ヲ以テ御通知ハ不申上其代リニ毎日御逓送申上候新報ノ帶封表面御名前ノ脇ニ(何月何日)ト記入仕置候間御覽可被成下候是ハ此日迄テノ新報代價並ニ郵便税トモ御拂濟相成居ルニ付此日マデハ新報逓送仕候ト申ス事ニ候
○郵便爲替又ハ銀行爲換等ヲ以テ時事新報代價御拂入レ被成下候節當方ノ名宛ハ(時事新報社)ト致シ郵便爲換ナレバ(東京郵便本局)ニテ受取ルベキ樣御取組被成下度候
○御住所ノ御都合ニテ郵便爲換又ハ銀行爲換等御取組被成下候儀御不便ノ御方ニ限リ時事新報代價並ニ郵便税共一錢又ハ二錢ノ郵便切手ニテ御拂入レ被成下候テモ苦シカラズ候
○時事新報豫約購讀ノ諸君ニテ住所御移轉等ノタメ新報配達先キ御取替ヘ被成度節ハ新舊兩方ノ所番ヲ併テ御通知被成下度候

時事新報

不景氣退散の望あり

明治十四年の末にてありけん日本全國一般に何となく寂寥不活潑の兆を現はし社會の運行迅速ならず是即ち今日に所謂不景氣の初めにて其芽を出だせる時にして爾來今に至るまで全四箇年間全國農工商業の衰微一日一日より甚だしく今年春夏の頃は稍々其極度に達し國内到る處遂に餓莩を見るに至りたり然るに此不景氣の眞最中不幸にも今年春季時候穩順ならずして爲めに茶の樹の害を蒙ること甚だしく今年製茶の分量は平年に比して僅かに半額に上る位の事ならんとの沙汰なり斯くの如く茶畠の不作なるは固より時候の不順に因るものありといへども又一方には數年來打續きたる不景氣に自然ろの畠の手入れも怠り肥料の供給十分ならず無事平穩の日にても兎角萎芽のよろしからざるに折も折とて時候の不順に遇ひ内外よりの攻撃に被害の度も案外に甚だしかりしといへり時候の不順は是非なしとするも肥料不足の爲め徒らに被害の度を増したりと聞きて人心の難儀一方ならず折柄又麥作も平年よりは三四割の減少ならんとの風說廣がり遂に實際の饑饉沙汰と爲りたるに此際何者の言ひ觸らしたるにや今年は天保年間の大饑饉年と距る丁度五十年目に當り同じく亦大饑饉年たるの兩相を備へ居る年柄なりとて賣卜者流の妄言大に朝野に流行し社會の一部分に於ては只管饑饉待受の手當に忙はしく其狼狽の狀實に見聞に忍びざるものゝ多かりし人間は饑渇の患より甚だしきはなし故に饑饉と聞いて人々既に十分の畏れを懐き居るに加へて饑饉年は即ち悪疫流行の年なりとの事を忽ち[illegible]し今年果して饑饉年ならんには幸にして餓死せざるも悪疫の爲めに生命を奪はるゝ事やあらん兎に角に今年は決して尋常の年柄にあらずとて大手廻はしにも餓死病死の手當さへなせる者なきにあらざりし然るに此際偶然にも長崎港に虎列剌病を發し其病勢の劇烈なる近年未聞のものにしてこれに罹る者十中の五六は必ず命を墜すべき勢ありスハ虎列剌病の襲來ぞと云ふ間もあらせず諸方に蔓延し無事の地方までも未だ病を見ざるに先づ死の恐るべきを思ひ人々皆活きたる心地はせざりし饑饉悪疫の取沙汰を聞き又其實物に接せんとす人心の常の平を失ふは無理ならざる事なり斯の如く饑饉と云ひ悪疫と云ひ有形無形の攻め道具を以て數年以來既に已に不景氣の呵責に其心身を疲勞し居たる全國人民の心膽を奪ひ其不幸失望の極度遂にこれと回復して再び社會の繁盛を見るの期なからんかと我輩竊かに憂慮の折柄時候漸く冷氣を増すと同時に悪疫の豫防も其効力を増したりと見え九州其他の虎列剌病も次第に跡を收め今日の實況にては到底其蔓延の力を逞うし得べき掛念萬々あるべからざるが如し一方の悪疫は斯く既に退散せしめたり扨彼の饑饉は如何と顧みるに米に粟に豆に黍に田作畑作に論なく全國到る處として十二分の出來秋ならざるはなく早稻中稻は既に新米と爲りて市場に押出さんとし農民の歡喜云ふべからず今朝まで隣村にて饑饉の豫言を聽聞したる者が午後は打集ひて豐年踊りの内相談を始め鎮守の臨時祭に神樂、村芝居と寄進し役者、神樂師の繁忙一方ならず萬民漸く鼓腹撃壤の瑞相を現はさんとする勢なり日本全國の稻田平年の收穫は凡そ三千萬石あり今年は豐年にて平均二割を增したりとすれば此過剩の分六百萬石一石を四圓の相場と見ても金にして二千四百萬圓なり米ばかりにて既に二千四百萬圓の臨時收入なり一切の農作物と合計したらんには必ず四五千萬圓の得益なるべしこれを全國の人々に割賦すれば一人に付一圓乃至一圓三四十錢の割前に當たるなり數月前まで事實と想像との饑渇に迫まりたる人々が尋常得益の外に更に又一人に付一圓何十錢ツヽの臨時收入を得たりといふては喜ばざらんと欲するも得べからざるなり蓋し全國農民の歡喜は或は事實に過ぎざる場合もありて未だ容易に不景氣退散と賀すべからざる事情もあらんかなれども人民も全四箇年間の不景氣に人の說諭を待たずして疾く自から勤勉節儉の極度を守り兎に角に今日まで辛抱したる其精神は今日以後も容易に拭ひ去るべきにあらず隨て今年の豐作に得たる臨時得益はこれを前數年間に失ひたる各種の損毛に比し誠に微々たる金額なるべしといへどもこれを利用して實益を收むるの工風に於ては決して不足する所あるまじく四五千萬の小資本遂に四年間の不景氣を退治するの大事業を成すべきやも知るべからざるなり近日横濱にて輸入品の引取高大に增加したりといひ又各地方よりの報道に依るに呉服太物商の織元又は綿糸製造場等は近來俄に景氣を回復し業務頗る繁忙なりといふなど是等も恐らくは今年豐作の影響にして不景氣退治の大業既に其緒を開きたるの吉兆にはあらざるか我輩は數年以來幾度か不景氣の夜が明けたりと見て遂に朝日の昇るを見ず失望に失望を重ねて今日に及び又候東天の白らむと見て今度こそは間違ひもなく夜の明くるしるしならんと先づ大に喜を表し重ねて失望せざらんことを祈るものなり

官報

○杉宮内省二等出仕外一名は昨八日宮内省に於て左の通仰渡されたり

宮内省二等出仕　杉　孫七郎
御用有之福島縣下へ被差遣候事

宮内權少書記官　麻見　義修
福島縣下へ被差遣候事

○明治十八年十月八日
宮内省七等出仕歩兵少佐從五位勳五等子爵　大河内正質
補陸軍省七等出仕

○本年秋季警察聯合會開設の旨届出でたるものは左の如し

第一區　靜岡縣　十月六日開會
第二區　高知縣　十月一日開會
第三區　大分縣　十月一日開會の筈なりしが悪疫流行に付き延會
第四區　岩手縣　十月十六日開會

（以上三件本年十月九日官報）

○紡績所營業實況（農商務省報告）　本年八月中各地紡績所營業實況は左表の如し

紡績所名	錘數（本）	營業日數（日）	管糸出來高（貫）	工男女員數（人）	販賣地方	製糸四十八貫目代價（圓）
愛知紡績所	二、〇〇〇	二二	八四三	一〇一	遠江	九七
名古屋紡績會社	四、〇〇〇	一八	二、一八七	一五一	美濃尾張遠江	九七
堺紡績所	二、〇〇〇	一七	九九ヶ	一、一九〇	大坂和泉紀伊美濃	七九
玉島紡績所	四、〇〇〇	二五	三、三五六	一五七	筑前筑後肥後長門	一〇二
桑原紡績所	二、〇〇〇	二ヶ	一、六九九	六七	河内和泉攝津肥後	九六
大坂紡績會社	一、五〇〇	二七	一四、一〇七	二八八	越後伊豫伊勢東京大坂尾張	九九
市川紡績所	二、〇〇〇	二六	一、二一八	五一	山梨	九五
三重紡績所	二、〇〇〇	二八	二、九九九	九一	伊勢尾張駿河	九六
廣島紡績會社	三、〇〇〇	二〇	一、〇五二	八八	廣島山口愛媛福岡	九九
岡山紡績會社	二、〇〇〇	一八	一、〇五五	一、二八八	伊豫備前	九六
鹿島紡績所	七〇〇	二六	四三ヶ	二七	東京長野福島宮城	一〇三
宮城紡績會社	二、〇〇〇	二三	一、〇九ヶ	一、四四〇	仙臺	九五
長崎紡績所	二、〇〇〇	二三	二、一五三	二二	筑後肥前肥後	九九
島田紡績所	二、〇〇〇	二二	一、二五六	五〇	東京駿河	九四
磯谷紡績所	三、〇〇〇	二七	二、一六七	七〇	東京筑後	九六
下村紡績所	二、〇〇〇	一ヶ	一、〇六三	一、一二七	久留米	九九

（明治十八年十月七日官報）

雜報

○彼得堡翰抄　露國聖彼得堡の皇宮内には彼得大帝の親翰六千通程を貯藏さるゝ由なるが今度露國皇帝は其中より若干通を撰び抜きて出版することを許可されたりとの風說あり

○穆仁德は獨逸に關係なし　獨逸國の半官報なる伯林の諸新聞は孰れも力を込めて穆仁德氏は獨逸政府又はビスマーク公と何等の關係もあるものにあらずと分疏し又右の諸新聞は露國が朝鮮と條約（秘密條約）を結び

たりと云へる風說
八日ジヤパン・ヘラ
○佐々木工部卿
湯本へ一泊昨日
○鐵道擔分　高崎
に付その擔分とし
張を命ぜらる本日
○保護說再び盛る
一般の通勢なる由
年以來日増に甚し
米合衆國との競爭
りたる所以は運送
在りては陸よも鐵
と加へたるに依り
るを得るに至り其
多く英國に入るよ
夫の利益を薄ふし
て地主より土地を
を目安として定む
從ひ農夫は次第に
ととなりたるに付
も從前の地代にて
が借地年期の未だ
地を押付くるもの
相場も大に低落せ
再び往時の穀物條
の農業を保護する
實行せんとの希望
至り又今の英政府
と主張するものあ
於て穀物條例を再
おもせよ如何なる
外國の競爭を制止
きが故に此度英國
衰弊の實況を調査
たるならんとの說
○白煉瓦　深川區
白煉瓦は其製造に
る竈の類に用て能
裝飾に用ゆべきも
は尾州瀬戸村及其
るものにて上州乗
造するに頗る上等
炭を以て燒き上る
火力に耐るといふ
へレゲレン氏の發
製造せし上等煉瓦
厘下等同六錢五厘
し石炭の多少に因
ひ火力の耐力を强
均一箇月の上り高
諸官衙其他府下并
場にして割け高は
りと又裝飾に供す
粘土にして其質を